○芽吹きの鎗

峯吉川の武藤亀松家の祖先は、水戸からおちてきた家であるが、あるとき、唐獅子に追われてきた狐を助けようとして、鎗をもつて追つたところ、どうしたはずみか鎗先がちよつと欠けてとれた。だが、まもなくそれがのびて元通りになつた。以来芽吹きの鎗といわれ同家に所蔵されている。

ところが助けてもらつた狐がある日あらわれ、助けてもらつたお礼に稲をうえるようすすめた。ところが当時この辺には稲がなかつたので、稲がないというと狐は案内するといつて、現在の山形県庄内地方につれていつてくれた。みるとみごとな稲がたくさん生えていた。喜んでとろうとしたら、唐獅子がでて来て追いまわすので、なかなかとることができなかつたが、四回目にとうとうとつて帰つた。次の年、植えてみると庄内の稲と少しも劣らない稲ができた。それを「御前ワダボ」といい、また、狐は村で祭ることにした。その後村へ獅子舞の入ることを禁じているとか。

（峯吉川）